

藻岩山・旭山縦走



江別医師会
友愛記念病院

亀井 富士人

藻岩山・旭山縦走を始めて8年になります。

サイクリング・ロードや大きな公園がいくつかあった厚別から山鼻に転居し、通勤距離が片道21kmと長くなり、通勤前の朝の散歩が難しくなりました。幸い、山鼻地区の自宅は藻岩山の山裾にあり、登山口まで1時間も歩けばたどり着けます。そこで運動不足の解消を目的に、リュックを背負って藻岩山と旭山を結ぶ手軽な約12kmの縦走登山を続けています。66kgあった体重が62kgに減り、体力の向上とともに活力の維持にも大いに貢献しています。

藻岩山は、標高531mの低い山ですが、展望台から見える360度のパノラマは、整然と並ぶ高層コンクリート群を中心とした石狩平野に広がる200万都市と、それを取り囲むように藻岩山から円山へと続く原始林の緑、遠景は、北に日本海と増毛山地、北東方向にピンネシリ山・美唄山、その東側には大雪山系の旭岳とトムラウシ山が見え、紺碧の空と白い雲が広がります。時候による眺望の変化もあり、雄大な姿に飽きることがありません。マンション群から登山道に踏み入ると、クマゲラの木をつつく音、ヒヨドリ・キジバト・ウグイスのさえずりが聞こえ、夏には梢からエゾハルゼミの鳴き声が響き渡ります。時には、木々の間をエゾリスが走り回り、エゾモモンガが飛翔する場面やエゾタヌキに遭遇することもありました。ニリンソウ・クサフジなどの草花が登山道沿いに咲き、それらの蜜を求めてクマバチ・キアゲハが飛び交います。田舎にいるかのようでリラックスし、ついつい時間を忘れ、星明かりのない晩秋の日暮れに、札幌の美しい夜景の薄明かりを道標にして下山したこともありました。

近年は、札幌に来る海外の方が増え、藻岩山・旭山でも見かけることは珍しくなく、そんな方々とちょっとした会話をするのも、ささやかな楽しみです。ある晴れた休日の展望台で混み合っているにもかかわらず、ぼっかりと空いた所があるので見てみると、若いドイツ人の夫婦が密着して会話を楽しんでいます。皆が遠慮をして離れていたのですが、なかなかドイツ語話者と遭遇できないので、少しお邪魔かと臆しながらも、思い切って話しかけると、奥様がにこやかに応対してくれました。少し怪訝な様子の男性ともなんとか会話をすることができ、ライプツィヒから来た北大の研究者だと聞くことができました。イタリア人の知人女性によると、ヨーロッパでは密着して会話をすることなどは珍しくなく普通

の光景のようで、生活習慣の違いを実感しました。また、ある曇りの日には展望台に2台の自転車があり、登ってきたのは誰だろうと、周りで話題になっていましたが、気に留めず下山しました。その山道で先ほどの2台の自転車に乗ったアメリカ人高校生が後ろから来て、道を尋ねてきました。山頂まで自転車で登って来たことも然ることながら、崖から落ちそうになって急ブレーキをかけ、狭い登山道を駆け降りていく彼らの様を見て、ただただ、無謀さに恐れ入るばかりでした。

藻岩山では6年前、熊の目撃情報が例年より多く、万全の対策を取って登っていましたが、今は年1～2回に減り、落ち着きを取り戻しています。その6年前の熊騒動直前に、登山道で珍しい国蝶オオムラサキを多数見かけました。青紫の美しい翅を今一度見たいと思っていますが、残念なことに叶いません。藻岩山においても、昆虫や鳥の数が年々減少しているように感じられます。われわれ人間が気付かない何らかの変化に自然は敏感に反応しているのかもしれない。



藻岩山山頂から、もーりすカー乗り場を展望